

森で、最も自然な力強い状態となります。防風林や防砂林として機能し、津波発生に際しては、津波エネルギーを減殺し、引き水時の家屋などの流出を食い止めようとするものです。子どもたちをはじめ、住民参加による作業で、防災意識を高めることにも役立ちます。

「無信不立」

北野湘南

民主党の小沢一郎元代表に無罪判決が下った。小沢氏やその周辺は「これで清廉潔白の身となった」とし、党内でも党員資格停止の解除どころか代表選への擁立など、復権への動きが活発化している。だが、判決は元秘書との共謀を認めなかっただけで灰色であると認定している。民主党は、カネと政治を巡る古くて新しい問題に対して自浄能力ゼロであることを自ら証明した。

裁判の過程で特捜部の調書に違法性があることが明らかになり、裁判所が特捜部の作成した調書の多くを証拠として採用しなかったことなどから「無罪」判決は、予想されていた。だが、4億円の政治資金の処理についての小沢氏の説明は「不自然」とした。検察審査会による強制起訴についても「違法性があるとは言えない」と審査会による強制起訴の有効性を認めた。元秘書らに対して有罪の判決は下っているが、その秘書らと共謀したとは言えないと無罪となっただけだ。俗な言い方をすれば「灰色であるが黒とは断定できない「すれすれの無罪」というのが実態で「精練潔白」とは程遠い判決内容だ。

小沢氏に近い民主党議員は「冤罪による起訴だったが、これで疑いは完全に晴れた」と氣勢をあげている。検察審査会の見直しに言及する議員も少なくない。地元の後援会で「小沢先生は無罪」との報告会を開く議員も多いようだが「黒を白と言いくるめる」とはこのことだろう。小沢氏の党員資格の解除を求

める声は、勢いを増し輿石幹事長も党員資格停止の解除に言及しており、解除となるのは時間の問題だろう。それどころか9月の民主党大会で党首選に立候補との動きも具体化している。小沢氏を支持する議員は120人程度とされるが、野田内閣の進める消費税引上げ法案に反対運動を展開するとしており、民主党が大混乱に陥るのは確実だ。

今回の判決で小沢氏と政治資金管理団体を巡る説明は不明瞭と指摘された。国会で説明もしていない。読売新聞の世論調査で87%が「政治とカネ」の問題で、小沢氏は説明責任を果たしていないとしている。「豪腕」「選挙上手」などの評判もあり、国民の一部に小沢氏の復活どころか首相就任を期待する声があることも確かだ。しかし、国会議員として復権するであれば自民党等が求めている国会での喚問に応じて、国民が納得するよう説明する必要がある。消費税引上げに反対としているが、引上げずに1000兆円に達する国の長期債務をどのように返済していくのか、具体策を全く示していない。過去に160人近い民主党議員と中国を訪問し、議員の多くが中国首脳とのツーショットに浮かれるという外交音痴の醜態をさらした。国民が、小沢氏に厳しい視線を注ぐのはこうしたことがあるからだ。

最大の問題は、このように多くの問題を抱える小沢氏の復権を簡単に許し、党代表に選出しようとする動きさえ見せる民主党の体質だ。孔子は国の守り、食料の十分な確保(現在で訳せば経済の安定?)、国民の信頼が政治の要諦であるとした。そのうえで国防、食料の確保を捨てても国民の信頼を失ってはならないと説いた。無信不立(信なくば立たず)は、ここに由来する。外交、景気対策の不手際。東日本大震災からの復興の遅れと、民主党への不信感、爆発寸前だ。その上に疑惑のある人物の復権を許す。政治が、信を取り戻すには一日も早い解散・総選挙しかない。